

お便りをお待ちしています



このコーナーは、皆さんの意見や地域の問題をお届けしています。あなたの情報を、ぜひ広報広聴課へお寄せください。

☎55-2700 ☎51-1456

✉kouhou@div.city.fuji.shizuoka.jp

まちかど ネットワーク



温かい煮込み料理・いため物にぴったり!!

冬キャベツ

(寒玉キャベツ)

食

卓でおなじみの定番食材、キャベツ。料理の主役に、付け合わせにと、まさに万能野菜の代表格です。市内では伝法地区での生産が盛んで、昭和40年以降、米の裏作として栽培されるようになりました。

年間を通じて食べることができ、市内の収穫時期は主に10月末～6月末。一般的に、収穫時期によって「春キャベツ」「冬キャベツ」と呼び分けられます。春キャベツは、春先から出回るキャベツで、玉の巻きがゆるく、葉が柔らかいのが特徴です。一方の冬キャベツは、晩秋～2月上旬にかけて



▲ロールキャベツ、焼きそばにもぜひ!! (佐野久男さん・洋子さん・哲久さん)



出回るキャベツで、玉がしっかりと詰まり、寒さに当たって甘さが増していきます。生のままでおいしく食べることができ、煮込んでも煮崩れしにくいのが特徴です。

父親の世代から40年近くキャベツを専門に生産している伝法の佐野哲久さん(左写真・右は、「うちのキャベツは、スーパーや飲食店を通じて、ほとんどが市内で消費されています。消費者の顔が見えることが、安全・安心のおいしいキャベツづくりへの活力になります。一言でキャベツといっても、時期をずらして10品種栽培します。ことしの猛暑を初め、どんな気候になっても、安定して食卓に供給するためなんです。今ちょうど、暑さに強い『秋徳』と、寒さに強い『稜山』という品種が収穫時期を迎えました。自然を相手に日々勉強ですよ!!」と笑顔で話してくれました。

今年で参加14回目となる吉原工業高校からは2チームが出場。ことしは学校創立70周年の記念事業として、代々引き継がれた車体2台のうち1台に、生徒みずから製作した新型ボディを乗せての挑戦でした。結果は31位(893km/ℓ)と45位(684km/ℓ・新型ボディ車)でした。



▲10月の全国大会の様子 (ドライバーは海野さん)

ズームアップ 吉原工業高校 自動車研究部

手づくりの省エネレースカーで「エコラン」を完走!!

エ

コランとは、1リットルのガソリンでどれだけ長い距離を走れるかを競う大会。このエコランの全国大会が、10月6日・7日に栃木県茂木町で開催され、164チームが参加しました。

今年で参加14回目となる吉原工業高校からは2チームが出場。ことしは学校創立70周年の記念事業として、代々引き継がれた車体2台のうち1台に、生徒みずから製作した新型ボディを乗せての挑戦でした。結果は31位(893km/ℓ)と45位(684km/ℓ・新型ボディ車)でした。



▲部員19人の挑戦はきょうも続きます (下中央が部長の上原さん)

イの製作は、発泡ウレタンの固まりを手作業で流線形に削り出すという気の遠くなる作業でした。タイヤをボディで覆うことで空気抵抗が少なくなり、燃費を向上させることができるんですよ」と話してくれました。

また、全国大会で新型ボディ車のドライバーを務めた海野和希さんは、「ゆっくり加速すると燃費の向上につながります」と、運転のコツを話してくれました。最後に上原さんは、部室の奥に掲げた部の最高記録94.1km/ℓの張り紙を見ながら、「目標は4けた(1000km/ℓ以上)です」と熱く語ってくれました。

また、ことし8月には、同校の電子機械科3年生が製作した太陽電池充電式電気自動車「コ口蔵」が、松崎町～富士市の約75kmを走破しました。

今、吉原工業高校の生徒が、環境に優しい次世代の自動車研究に向けて加速中です!!